

## 最優秀賞（京都府知事賞）

### 北方領土を通して領土問題を考える

亀岡市立東輝中学校 2年 加藤 優生

オランダには、バーレ・ナッソー・ヘルトホという地域がある。隣国ベルギーの飛び地が点在する。いわば、「共存地帯」である。ここに倣って、日露間の北方領土問題を、さらに、日中尖閣諸島問題をも解決できないだろうか。両国が協力、あるいは共存することで、平和裏に領土問題を解消するため、ここでは北方領土を軸に考えていきたい。

北方領土、すなわち択捉・国後・色丹・歯舞の島々は、元来日本固有の領土だった。江戸時代には、日本人は、既にこの島々の存在を認識していた。このことを考えると、当然これらは日本の領土ということになる。

しかし、戦争が終結して二週間後に、ロシア、当時のソビエト連邦が北方四島に進攻してきた。そして、サンフランシスコ平和条約に調印していないことを理由に、現在に至っても占拠し続けている。

窃盗である。いや、武力を行使しているから強盗と言うべきか。ともかく、日本の領地を奪い、島民を追放し（サハリン抑留、後に強制送還）、平然と生活しているロシア人は、一刻も早く北方領土を返すべきだ。

とは言え、そう簡単な話ではあるまい。格好の漁場をロシアが手放すとも思えないし、何より、授業でも習ったが、そこに生まれたロシア人の子どもから見れば、そこが彼らの故郷なのだ。かつてのソ連のように、日本が北方領土を無理に奪還すれば、彼らの故郷を奪うことになる。非常に後味が悪い。ロシア領のままでも、日本領になっても、どちらかが涙を呑む結果になってしまうのだ。

そこで、冒頭に上げた「共存地帯」案に注目してほしい。むろん、北方領土は、日本のものということを経済社会が認めた事実の下、とりあえず、このことをロシア政府に認めさせる。そして、元島民の方々に北方領土へ帰島してもらおう。だが、ロシア人を追い出すようなナンセンスなことはしない。共に住むのである。島を分ければいい、という意見もあるが、それは共存とは言わない。本気で日露の領土問題解決を願うのならば、何の隔たりもない。長い歴史の中で異なる文化や宗教を寛容的に受容してきた日本だからこそ可能な、最高のプランではないか。日本政府や野党指導者は、国会で揚げ足の取り合いなどしている場合ではない。直ちに6ヶ国協議やG8でロシアと徹底的に話し合うことが解決の糸口であると思う。また、日中の尖閣諸島の問題も、中国に石油資源開発などの既成事実が積み上げられてしまう前に、解決しなくてはならない。こちらは、日本が領土を実効支配しているのだから、遠慮なく抗議していただきたい。

世界中に目を向けると、問題となっている領土は、砂の数ほど存在する。東シナ海のSpratly諸島（日本が放棄した。現在6ヶ国が領土を主張している）やグアンタナモ基地（キューバ国内にあるアメリカ基地）などもそれと言える。

領土問題は、時に戦争を起こす。最悪の事態になる前に互いに協力・共存することが、よりよい解決策だと思う。そのためには、根拠に基づき主張すべきは主張し、交渉することが、今求められている。

## 最優秀賞（京都市長賞）

### 私達が出来る返還運動

京都市立嵯峨中学校 2年 卯滝 由季

私は最近あるニュースを聞いて腹が立った。ロシアのメドベージェフ大統領が国後島を訪問したというのだ。しかも、日本に向かって「北方領土はロシアのものだ。」と主張した。私はなぜ日本固有の領土に、ロシアの大統領が訪問し、自国のものだと主張したのか疑問に思う。新聞によると、ロシア側は日本政府による外交政策の混乱の足元を見て、日本の返還要求をけん制してきたのだという。私は怒りを覚えたのだ。日本固有の領土をロシアに譲る訳にはいかない。何があろうと北方領土は私達の大切な領土なのだ。

私は中学一年の時から、北方領土問題に関心を向けてきた。そして今年の夏、念願の「少年少女北方領土研修」に行ってきた。そこでは、元択捉島民の三上洋一さんに貴重なお話を頂いた。三上さんは小学生の時、島から追い出され、大変悲しい思いをされた。「島にいたかったらソ連人になれ。」と威されたぐらいなのだ。日本人が追い出された後は、ソ連の学校が建設され、島全体が占領されてしまった。私は三上さんのお話を聞いて、北方領土返還への気持ちが更になくなった。

北方領土は豊かな自然や水産資源に恵まれ、エトピリカやヒグマ、アザラシなど沢山の動物が暮らしている。六十五年前までは、そこにたくさんの日本人が住んでいた訳だ。しかし、一九四五年ソ連が千島列島・北方領土を不法に占領。日本は返還要求運動を行っているが、一向に解決への糸口は見つからない。現在はロシアの領土とされているため、厳重に警備されている。だから日本人が自由に、北方領土を行き来する事ができない。でも、メドベージェフ大統領が国後島を訪れ、自国の領土だと主張したのも、警備が厳重にされているのも、日本の不満を承知しているからだと考える。つまり、日本とロシアで十分な話し合いが行われていないという事だ。このままで北方領土問題は絶対に解決しない。どんなに時間がかかっても、両国が納得のいく話し合いを行うべきだ。それでもし、日本に北方領土が返還されたとしても、今まで住んでいたロシアの人々が行き場を失うのであれば、「共存」もありだと思ふ。もう二度と三上さんのように北方領土問題で苦しむ人をだしたくない。でも一番は、話し合いで日本に北方領土が返還されることを強く望んでいる。

そのために、私達が出来る事は「一人一人が北方領土問題に関心を持ち、声をあげる事」だと考える。北方領土問題は「全国民の国の問題」としてとらえなければならない。私達が北方領土についての知識を正しく理解し、心を一つにして日本政府の背中を押せる様な原動力となる様に……。その原動力が返還要求への大きなエネルギーとなり、全国民の力で北方領土問題が解決する事を私は実現させたい。